

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【栄小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	本年度、おおむね確立することができた「ドリルパーク」や「プレテスト」等を活用した漢字や計算等の反復・習熟の時間を継続して確保していく。習得した知識・技能を繰り返し、家庭とも連携を図りながら、児童が主体的に自主学習に取り組めるようにしていく。 「自分の学びを振り返る」機会が少しずつ増えているが、依然として課題が見られる。学校全体で取り組めるように、学校課題研究とも連携を図り共有をしていく。また、「振り返りを生かした課題設定」、「学びを深める時間の確保」についても、継続して取り組んでいく。	
思考・判断・表現	「理由や根拠を明確にして自分の考えを表現する」ことに課題がみられたため、根拠資料を基に自分の考えをまとめて表現する活動、ICTを効果的に活用することを各教科の授業で引き続き重視していきたい。学校課題研究でも「表現すること」に重点をおき、授業実践をしていく。また、児童が「主体的に学びを深めていくこと」について、さらに定着を促しているような授業づくりを行っていく。	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題>基礎的・基本的な知識・技能の習得状況に個人差が大きい。 <指導上の課題>反復や習熟の時間が十分に確保できていない。自分の学びを次の学びへ生かすための振り返りの時間が設定されていない。	⇒ 「ドリルパーク」や「プレテスト」等を活用し、漢字や計算等の反復・習熟に取り組む。【週に1度(ぐんぐんタイム)】児童が自分の学びを次の学習へ繋げていけるように、振り返りの時間を設定する。【毎時間】学びを深める時間を活用し、一人ひとりの学びを進める。【単元ごと】
思考・判断・表現	<学習上の課題>理由や根拠を明確にして、自分の考えを表現することに課題が見られる。 <指導上の課題>児童が主体的に学習計画や学習課題を設定する学習活動が少ない。	⇒ 児童が自分の考えをまとめて表現する際、オウリングプラスやCanva等を活用し協働的な学びにつなげていく。【各単元】児童が主体的に学習を進めていけるように、自分で課題を決めその解決手段を考える場を設定する。【各単元】

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の達成状況
知識・技能	B	授業や朝学習「ぐんぐんタイム」(週1回)で、ドリルパークやプレテスト等を活用して、漢字や計算等の反復・習熟に取り組むことができた。一人ひとりが取り組みや成果のデータをもとに、自分の課題に合った学習に継続して取り組ませていきたい。 学習の振り返りについては、少しずつだが取り組みが定着してきている。その結果、自分の学びを次の学習へ繋げることができた。また、一人ひとりの学びを進めることができた。	
思考・判断・表現	B	学校全体としてICTを活用すること、オウリングプラスやCanva等を活用し自分の考えをまとめて表現することへの意識が高まってきているが、理由や根拠を明確にすることがまだ不十分である。また、児童主体の個別最適な学びについても、研修を継続していく必要がある。公開授業を1人1回以上実施することができた。 中間期見直しで掲げた「読書活動の充実」では、図書委員会とも協力し、「おすすめ図書」の紹介掲示、「ピリオバトル」、「スタンプラリー」など、児童が本に親しむ機会を増やすことができた。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」において課題がみられた。既習の漢字を文章中で使う習慣が身に付いていない児童が多く、漢字の使い方や意味の理解が不十分であると考えられる。算数では、「数と計算」領域の分数の計算に課題がみられた。分数の意味や仕組みの理解を十分にしていないことが考えられる。分数の計算力を高めるためには、計算のルールだけでなく分数の概念の理解が重要である。理科では、「地球」を柱とする領域に課題がみられた。水の温度による状態変化の理解が不十分であると考えられる。 R7全国学力・学習状況調査の児童質問「次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」に対する肯定的な回答の割合がとても大きい。今後も基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けた取り組みを継続していく。	
思考・判断・表現	国語「読むこと」では、事実と感想、意見などの叙述を基に主旨を把握すること、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることに課題がみられた。算数では、「変化と関係」に課題がみられた。問題解決に必要な数量を見いだすこと、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて表す力が不十分であると考えられる。理科では、「地球」を柱とする領域に課題がみられた。実験結果から理由を導き、結論を明確にする力が不十分である。 R7全国学力・学習状況調査の児童質問「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していったか」に対する回答の割合は低い傾向にある。ICT活用の割合も低いことから、今後もICT機器を効果的に活用しながら自分の思考を表現できるような授業ができるよう、教職員の研修を積んでいく。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、全学年を通して「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題がみられた。既習の漢字を使うこと、主語と述語の関係に気をつけること、適切に敬語を使うことができていない。「学習したこと」だけでなく、日常的に言語を意識させること、継続的に使う場を保障することが大切である。算数では、全学年を通して「数と計算」に課題がみられた。四則計算の基本が定着していないこと、計算方法の意味理解が不十分であることが考えられる。引き続き「ドリルパーク」等を活用しながら、基礎・基本の確かな定着に向けた取り組みを継続していく。社会では、「地理的環境と人々の生活」に課題がみられた。生活体験と結びつけて理解を深めることや、地図や資料を正確に読み取る力を育てることが大切である。理科では、「エネルギー」を柱とする領域に課題がみられた。用語を覚えるだけでなく、概念としての理解、学年間で学習内容の接続を意識していくことが大切である。	
思考・判断・表現	国語では、全学年を通して「話す・聞く」に課題がみられた。筋道を立てて話すこと、相手や目的を意識した話し方、聞き方ができていないと考えられる。自由に話をさせるだけでなく、「比較する」「理由を問う」「合意形成を図る」など、思考を伴う言語活動を行うことが大切である。算数では、「データの活用」に課題がみられた。表やグラフを正確に読み取る活動、数値を根拠に説明させる活動を充実させていくことが大切である。 「友達との話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」の質問に対する肯定的な回答の割合は9割を超え高い結果となった。一方「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」の質問に対する肯定的な回答の割合は7割と低い結果となった。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	朝のぐんぐんタイムにて、「ドリルパーク」や「プレテスト」を活用して、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことができた。 自分の学びを振り返り、次の学習や課題設定に繋がれているのが確認できた。	変更なし
思考・判断・表現	C	自分の考えを表現する際に、理由や根拠を明確にすることがまだ不十分である。また、ICTを活用すること、児童主体の個別最適な学びを進めることにも、学校全体での実施には課題がある。	資料や文章を読み取る力を向上させるため、読書活動の充実を図る。【朝読書・秋の読書週間の実施】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)